

各関係機関長 様

熊本県農林水産部長

病害虫発生予察警報について（送付）

このことについて、平成27年度病害虫発生予察警報第1号を発表しましたので、送付します。

警 報

平成27年度病害虫発生予察警報第1号

農作物名 イチゴ
病害虫名 ハダニ類（ナミハダニ・カンザワハダニ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 収穫期（2月以降）
- 3 発生程度 多
- 4 警報発表の根拠
 - (1) 平成27年12月2日付けで注意報第7号を発表したが、1月の巡回調査における寄生葉率は、43.3%（平成26年11.3%）で12月の調査時より更に上昇し、平成26年より多い発生が続いている（図1）。この寄生葉率は、過去20年間のうち最も高い（図2）。
 - (2) 福岡管区気象台が1月28日に発表した九州北部地方の1か月予報によると、気温は平成26年並または平成26年より高い予想であり、ハダニ類の発生に適した条件が続くと考えられる。
 - (3) ハダニ類が多発すると株のわい化や枯死がみられ、大きく減収する。ハダニ類はこれからの気温上昇とともに急激に増加するため、現在は比較的発生が少ないほ場も含め、早急に徹底した防除を行う必要がある。
- 5 防除対策
 - (1) 今後は気温が上昇しハダニ類の密度が高まるが、3月以降は収穫盛期のため防除が遅れがちとなりやすい。したがって、2月中に徹底した防除を必ず行い、密度を低下させる。
 - (2) ハダニ類の密度が高いと薬剤防除の効果が劣るので、薬剤防除の前にはハダニ類が寄生した老化葉を除去するとともに、寄生頭数が多い株やわい化した株は引き抜きを行う。除去した葉や株をほ場内に放置すると、そこからハダニ類が他の株に移動するため、必ずほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
 - (3) 薬剤防除の際は、効果を高めるために事前に下葉かぎを行い、十分な液量で薬剤液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布し、散布むらをなくす。
 - (4) 使用できる殺ダニ剤が少ない場合には、気門封鎖剤などの物理的資材を積極的に活用する。気門封鎖剤は、ハダニ類に直接付着しないと効果がないため、特に丁寧に散布する。また、卵への効果や残効性が無いため、7日程度の間隔で複数回散布する。なお、葉や果実に薬害を生じやすい剤もあるため、ラベルなどで使用上の

注意事項を確認した上で使用する。

- (5) 未発生ほ場への持ち込みを防ぐため、ハダニ類が発生しているほ場の管理作業は最後に行く。なお、親株ほ（育苗ほ）についても持ち込みに注意する。
- (6) カブリダニ類を放飼したほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を使用しハダニ類の密度を抑える。ただし、ハダニ類が増えすぎて天敵で抑えきれない場合は、殺ダニ剤を中心とした薬剤防除に切り替える。
- (7) 農薬は、ラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守して農薬の安全使用に努める。

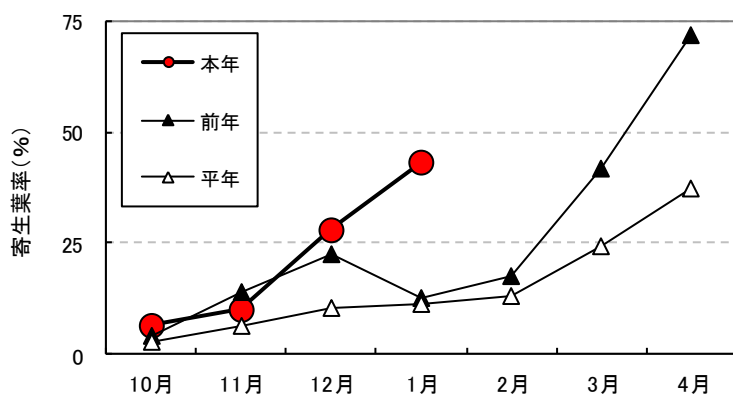


図1 巡回調査におけるハダニ類の寄生葉率の推移

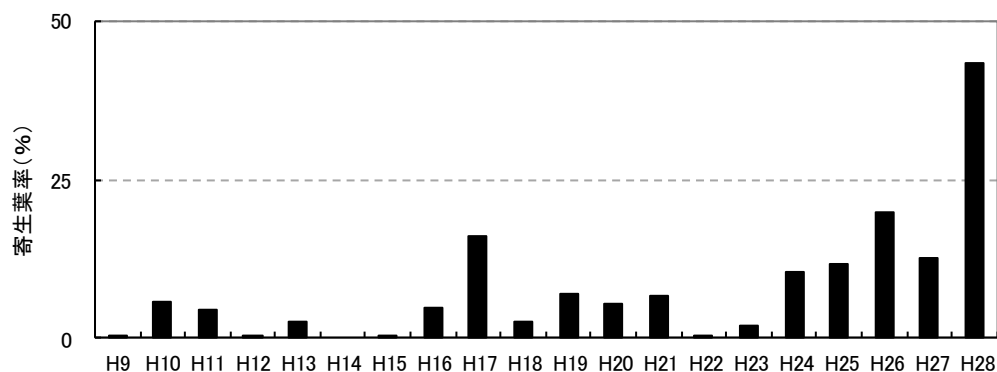


図2 ハダニ類の寄生葉率の年次比較（1月調査）



写真1 ナミハダニ



写真2 イチゴの被害株（写真中央）

○熊本県病害虫防除所 TEL 096-248-6490

（熊本県農業研究センター 生産環境研究所 病害虫研究室 予察指導係）

○熊本県農林水産部 生産局 農業技術課 植物防疫・農薬監視班 TEL 096-333-2381